

学校図書館 Take Off!

No.20



本号の目次

トピックス 子どもゆめ基金助成事業報告	P. 2
広瀬恒子さん講演会 『子どもの本を読みましよう』	
紹介図書リスト	
図書館見学—八王子市立浅川中学校・都立多摩図書館	P. 4-5
こんな研究会もありました「子どもの本を選ぶとき」	P. 6
2016年度 要望書回答	P. 7
活用してみませんか、ガイドブック	P. 7
情報コーナー	P. 8

学校図書館にもっと本が欲しい!

学校図書館の蔵書が増えてほしい、と子どもたち、教員、学校司書は強く思っていると思います。学校の規模により、その予算額はそれぞれですが、小規模校では10万円そこそこの学校もあるようです。調べ学習の先ず始めによく使う子ども用の百科事典「ポプラディア」などは10万円を超えるので、そろえるのは並大抵ではありません。

中央図書館では、調べ学習や学級文庫用に団体貸し出しをやってきています。教科の単元に合わせて、一定数の図書を借りることができ、また運搬してくれるので大変ありがたいのですが、八王子は学校数も多く、思うように借りることができません。学校に児童の数に合わせて十分な質と量の図書があることはみんなの理想です。これから教員の意識も高まり、児童が主体的に調べ学習がしたいという気持ちも大きくなって、「もっと本を!」と声を上げることによって、八王子の学校図書館がもっと充実していけばなあと思います。

(宮本 茂)

八王子に学校図書館を育てる会広報紙
二〇一七年四月二十日発行 第二〇号

トピックス 子どもゆめ基金助成事業

講演会 「子どもの本を読みましよう」

(親子読書地域文庫全国連絡会代表)

講師 広瀬恒子さん

平成28年12月4日 八王子市中央図書館

毎年恒例となっている広瀬恒子さんの講演、今回もたくさんのお話を紹介いただきました。配布された図書リストの本以外にも、持参された本のカバーを見せながらお話しされ、尽きることのない話題に圧倒された時間でした。

子どもの本の全体的な動きとして、電子書籍化が進む中、子どもの本のエンターテインメント化に拍車がかかっていることを指摘されました。朝の読書での短い時間にも読み切れる短編集が各出版社から出ています。商業主義的な本づくりの動向に目を向けていくことも必要だと感じました。

絵本は0才から大人まで、対象が広いボーダレスなものも多く出版されています。写真絵本をはじめとするノンフィクション分野が健闘しています。『かえるふくしま』(矢内靖史/著 ポプラ社)はカエルの写真

から福島の問題を「帰る、(よみ)がえる、変える」と提起しています。

戦後七十年を超えましたが、新日本出版社の「文学のピースウォーク」シリーズなど、戦争に関する文学も出版されています。また、コリアンタウンが舞台の『セカイの空がみえるまち』(工藤純子/著 講談社)など、設定に多様性が見られる小説も出ています。

雑誌『日本児童文学』

二〇一六年十一月・十二月号の特集「児童文学・新しい地平を探る」

から、児童文学のあり方の変化とどこに向かっているのかについても言及がありました。高学年以上向きの本やYA小説と一般書との垣根がなくなってきた現状で、児童文学とは何かを改めて考えさせられました。

一冊一冊の本について、内容はもちろんのこと、そ



の背景や作者に関することも含めて広く深い視点で評価されています。単純に「この本が良い」のではなく、しっかりと自分の目で確かめて紹介していきたいと思えます。

衝撃的だったのは、調査によると、十代の読書は個人差よりも学校間の差が大きいのではないかということでした。どの中学に通うかによって読書環境が変わってしまうのは残念なことです。学校図書館の充実を求めていくことは重要なはたらきかけであると感じました。

『アウシュヴィッツの図書係』
(アントニオ・G・イトウルベ／作、小原京子／訳 集英社)より、強制収容所という極限の状況でも主人公の「生きる意欲」を失わせない本の力の大きさを感じました。そんな本の力を借りて、これから子どもたちに読書の楽しさを伝えていきたいです。



(文責 H)

～広瀬恒子さんご紹介の本の一部～

<絵本>

- 『いもさいばん』 きむらゆういち／作、たじまゆきひこ／絵 講談社
『ソーニャのめんどり』 フィビー・ウォール／作、なかがわちひろ／訳 くもん出版
『こわい、こわい、こわい?』 ライク・ヤミ／作、カリソ・ツェラー／絵、那須田淳／訳 西村書店
『北極の宝物』 ダナ・スミス／作、リー・柯仲／絵、みはらいすみ／訳 あすなろ書房
『これから戦場に向かいます』 山本美香／著 ポプラ社

<読み物>

- 『トンチンさんはそばにいる』 さえぐさひろこ／作、ほりかわりまこ／絵 童心社
『四人のおばあちゃん』 ガイナ・ウィン・ジョーンズ／作、野口絵美／訳、佐竹美穂／絵 徳間書店
『坂の上の図書館』 池田ゆみる／作、羽尻利門／絵 さ・え・ら書房
『ボノボとともに一密林の闇をこえて』 リオット・シュルファー／作、ふなとよしこ／訳 福音館書店
『アボリア あしたの風』 いたうみく／作 童心社

学校図書館に人がいるということとは…

〜八王子市立浅川中学校を見学して〜

平成29年3月8日、本会員3名で浅川中学校図書館見学に行ってきました。ちょうど校庭には早咲きの桜が咲き誇り、二階の西端に位置する学校図書館は、入る前からあたたかな雰囲気がかぼれていました。入口には先輩たちのおすすめの本のコーナーがあり、明るい色のカードがびっしり並び、つい立ち止まって読んでしまいました。

★中学生が一日に50人もやってくる!?

昼休みに入ったばかりの時間に伺いましたが、たくさん生徒が中央カウンターの始め、あちこちで本を見たり話したりしています。学校司書さんと話すのが楽しい様子で「静かに」と言われながらもニコニコ顔で集まっていました。(今日は三年生が行事で来ていないので三年生の定位置に二年生が嬉しそうにはりついていてということでした。)

★生徒さんにインタビュー!

Q 「先生(学校司書さん)がいるようになってどうですか?」

A 「図書館に来たくなった。」「本を紹介してくれるのでよい。」

生徒は、隅っこで本を読んだり、「この本おすすめ!」と紹介し合ったり、静かでも活気を感じられる空間でした。

◆図書館に人がいるということは、中学生が進んで図書館に足を向けるようになるということ。

★学校図書館を支えてきたボランティアの皆さん

2年前に司書さんが入る前は図書ボランティアの皆さんが図書館の整理整頓や掃除、廃棄を行っていたそうです。訪問の日はベテランのお二人が図書館の窓ガラス用の花の飾りを作っていました。

約14年前に発足した図書ボランティアは、毎週1回昼々14時頃まで活動。当初は昭和の本の廃棄から始め、手作業で蔵書録も作っていたとか。毎年夏には地域の方にも呼び掛けて、棚出しの大掃除をしているそうです。ある時は2学期一杯掃除にかかった時もあったそうですが「どんなに人手が足りなくともこれだけは欠かさずに続けています。」と笑顔で答えてくださいました。子ども達が本を手にとった時、埃の被っていないようにとの思いが詰まっています。現在学校コーディネーターも兼務しているリーダーさんは、年々ボランティアの人数が減っていく悩みもありながら「学校司書さんが来て下さるようになってとても仕事がスムーズで助かります。以前はそんな余裕もなかった、出来

なかった装飾をしてみようかなという気持ちになっています。今はとても楽しい作業をさせて頂いています。」と梅や桜の切り紙をパウチしながら話してくれました。

◆図書館に人がいるということは、ボランティアも協働できるということ。

★資料が見やすく、利用しやすい学校図書館

図書館に入った途端に感じたのは、掲示や本の表示がわかりやすくすっきりしていて、本に近寄りたくなる雰囲気だということでした。総合学習のコーナーも特設され、調べ学習に対応していることもよくわかりました。

専門的立場から選書、配架、表示がなされ、各所に工夫がされていました。さすが司書さんならではの環境整備でした。

今年度は初めて「調べ学習の手引き」を作成し活用を始めたそうです。

◆学校図書館に人がいるということは、学校図書館が読書センター・学習センター・情報センターとして機能していくということ。



(まとめ…訪問者 O・K・T)

都立多摩図書館を見学して

西国分寺駅より案内標識に導かれ、少し大回りしてたどり着いた都立多摩図書館は、今年1月に新築移転開館したばかりの綺麗な建物です。カフェスペースもある広々とした落ち着いた雰囲気のエントランスホールにも期待感が膨らみました。職員の方に案内されて、受付で入館証をもらい、事務室を通り会議室へ。途中委託会社の部屋があり、都立図書館といえども委託なのかと感じつつ、いざ閲覧室へ。

移転オープン記念展示「雑誌と絵本で世界を知る」は、雑誌と児童・青少年資料に力を入れている図書館に相応しい内容で充実していました。絵本のコーナーにあった特注の布製白地図は、世界の昔話が一目でわかる、見応えのある逸品でしたし、2階3階の閉架書庫では、貴重本も拝見させて頂きました。「フランダーズの犬」初翻訳版の主人公ネロ少年の名前が日本風にアレンジされていたとは、驚きでもあり、時代を感じさせられました。1階の開架書庫には、児童書の最新1年分を並べた選書コーナーもあり、現役学校司書にとって、青少年エリアにあった「学習応援棚」冊子等のお役立ち資料とともに、利用したくなる図書館だと感じました。

子どもの本にかかわるものならば一度は訪れたい図書館と言えるでしょう。

(文責 手嶋)

2月26日に、日本子どもの本研究会会員研修へ参加してきました。元ほるぷ出版の編集者だったほそえさちよさんによる「子どもの本を選ぶとき」と題した講演です。子どもたちへの読み語りや本の紹介で、絵本の次に何を手渡そうかと悩むこともあり、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターに出かけました。以下、概略をご紹介します。

「子どもの本を選ぶとき

「絵本から読み物へといざなう」

子どもの本を選ぶには、まず子どもの発達段階を知ることが大切です。「自分」と「あなた」を認識するのは3・4歳、9・10歳の中学年になってようやくよくそれ以外の「彼ら」の存在が理解されるそうです。「公」を理解するのはそれ以降ということになります。

絵本から児童文学への橋渡しになる大切なジャンルが「幼年童話」ですが、日本で出版されるその実態は、大きな活字で縦組みに書かれ、イラストのたくさん入ったレイアウトでページ数も字を覚え始めた子どもが一人で読めるよう少なめにと本の形態が指標になっているように思われます。本の大きさ・形・書体・行間・

分かち書きなどといった形態も大切ですが、編集者ほもつと子どもの身体的発達や心の発達を考慮した本を作ろうとしています。

「彼ら」を意識することでとまどいを感じることも多くなる9・10歳の時期に、自分の気持ちに言葉を与えてやれるかどうか、いろんな子がいて、自分は自分で良いのだという多様性を示してあげることができるとは本の存在が大きいと思われます。「より多く早く読むこと」ではなく、指さしながらどおり読みをしたり、セリフを分担して一緒に読んだり楽しみながら自分で読めるようになるようなトレーニングも必要です。

子どもは本を読むことでどんな変化をおこしているのでしょうか。本と自分の関係の中で自分を知り社会を見、未来を見るようになるのではないのでしょうか。本を読むことはより深く考えるツールを自分の中に持つことでもあると言えます。「本は世界よりも小さいが、本を読まなければ世界の大きさも分からない」という言葉を引用され、きちんとした志のある本、生きる指針となる本を、子どもが手を伸ばせば届くところにそつと置いていきたいものです。その指針とは、大人がきちんと描かれているかどうかと言えるでしょう。

(文責 桑原)

2016年度 要望書回答

二〇一六年度提出の要望書およびその回答

平成28年11月28日、安間教育長に今年度の要望書を提出、年度末に回答をいただきました。

(太字が要望項目・「↓」のあとが回答、項目・回答とも要点のみ抜粋)

- 1 **専門・専任・正規の学校司書を全校に配置**
↓28年度現在市内小中学校全校に週1日、専任にて配置
- 2 **学校司書一人当たりの担当校数の削減と同一校に複数年勤務、担当する小中学校の連続性への配慮**
↓28年度より担当校を中学校区単位とし、29年度の担当校については本年と同一校とする
- 3 **学校図書館サポートセンターのさらなる充実**
↓現行の業務の充実に加えて、市立図書館との連携強化など総合支援を図る
- 4 **蔵書の充実** ↓「学校図書館図書標準」に基づき、計画的な整備・更新を図る
- 5 **学校図書館管理システムの全校導入**
↓31年度の導入に向け検討
- 6 **市立図書館による学校支援の強化**
↓28年度より事務員を増員し体制を強化中
- 7 **学校図書館の持つ専門性を生かすには**
↓研修を充実させていく



活用してみませんか、ガイドブック

私たちの会員が活用しているガイドブックです。講演会講師の方の紹介や、会員仲間の「これいいよ！」でリストアップしました。1～5はブックガイド、6は広瀬恒子さん著書のボランティア活動ガイドです。

タイトル

著者・出版社

1	『明日の平和をさがす本』 (戦争と平和を考える絵本からYAまで300)	宇野和美ほか編 岩崎書店
2	『多文化に出会うブックガイド』	世界とつながる子どもの本棚プロジェクト 読書工房
3	『今すぐ読みたい!』 10代のためのYAブックガイド150!	金原瑞人他 ポプラ社
4	親地連がすすめる読みかせ絵本250 (高学年向・2004～2014)	親子読書地域文庫連絡会 絵本塾出版
5	『おやちれんがすすめるよみかせ絵本250』 (低学年)	親子読書地域文庫連絡会 親子読書地域文庫連絡会
6	『読書ボランティア活動ガイド』 —どうする?スキルアップどうなる?これからのボランティア	広瀬恒子 一声者

「これから」の予定

平成29年度も、学校図書館の充実や子どもたちの読書を応援するさまざまな活動を行います。子どもゆめ基金の助成を受けて、読書会（会員によるブックトークと参加者の交流）、絵本作家さんを招いたワークショップ、そして本会恒例の広瀬恒子さん講演会などを企画しています。

また、会員内部の研修として学校図書館見学会や学習会も予定しています。興味のある方はお問い合わせください。

情報

◇平成29年度子どもゆめ基金助成活動 読書会

- 1 絵本 6月26日(月)
 - 2 YA 7月1日(土)
 - 3 児童書 10月23日(月)
 - 4 知識の本 10月28日(土)
- 午前9時30分～12時、会場はいつでも生涯学習センタークリエイトホールを予定しています。後日チラシはHPでご案内します。

◇八王子市の情報

八王子市では今年度「調べる学習コンクール 八王子」を開催するそうです。八王子市広報4月15日号と同時に配布された「はちおうじの教育」にも掲載されています。

夏休みには親子で図書館に行ってみるのも楽しいのではないのでしょうか。

会員募集

正会員：…本会のすべての活動に参加できます。

入会金500円、年会費1000円です。

賛助会員：…広報紙やイベントの情報をお届けします。本会の活動を支援してくださる個人、団体の方。
年会費一口1000円です。

編集後記

今年八王子市の市制100周年ということで、記念事業もあるそうです。学校図書館が市民に注目され、読書だけでなく学びの宝庫として理解が深まればなによりです。市内108校の学校図書館に司書さんが派遣され、他地区と同じスタートラインに立った八王子、これからは楽しみます。

(お)